

昭和七年四月

金谷國道改良工事概要

內務省金谷國道改良事務所

D11

N

330

目次

- 一、工 事 沿 革
- 二、改 良 計 劃 概 要
- 三、工 事 施 行 大 要
- 四、工 事 設 計 工 法
- 五、用 地 及 地 上 物 件
- 六、失 業 救 濟 狀 况

登 録	昭和 61年 11月 5日
番 号	第 33002 号
社団法人	土 木 学 会
附属	土 木 図 書 館

一、工 事 沿 革

本國道改良區域ハ静岡縣榛原郡金谷町菊川ヨリ全縣小笠郡日坂村日坂ニ至ル區間ニシテ、東海ノ幹線タル國道一號路線ナリ。其通過スル所ハ溪谷ニ沿フテ山腹ノ急坂路ヲ縫ヒ、又ハ幾多ノ谷川ヲ渡ルガ故ニ狹隘ニシテ急峻ナルノミナラズ、局部的ニ屈曲甚ダシク交通運輸共ニ其不便不利名狀スベカラズ、古來小夜ノ中山ト稱シ函嶺ニ次グ險路ニシテ之レガ改良ハ最モ焦眉ノ急務トセル處ナリ。

抑モ本工事箇所ニ沿ヘル東海道ハ、明治十二年民間業者ニ於テ所謂賃取道路トシテ起工シタルモノナルモ、明治三十三年ニ至リ縣移管ト共ニ國道ニ編入セラレシモノニシテ、大正八年道路法制定セラル、ヤ静岡縣ニ於テハ國道改良ノ大計ヲ樹テ、交通ノ利便産業發展ニ資セムト欲シ管内國道一號路線ノ改良ヲ企テ改築費八百萬圓ヲ計上シ、十一ヶ年繼續事業トシテ國庫ノ補助ヲ得完成ヲ期セムトシ己ニ金谷日坂間ニ在リテハ一部完成シ將ニ繼續工事トシテ起工ノ計劃ナリキ。

偶々昭和五年度末政府ニ於テ時局ノ趨勢ニ鑑ミ失業救濟事業ヲ計劃セシヲ以テ、静岡縣管内ニ於テハ本國道改良工事ヲ該事業ノ一トシテ選定シ、昭和六年四月ヨリ一ヶ年ノ期限内ニ竣工セシムル豫定ヲ以テ政府自ラ直轄施工スル事トナリシモノナリ。

二、改良計劃概要

一、路線名 國道第一號路線

一、事業區域

自靜岡縣榛原郡金谷町菊川
至全縣小笠郡日坂村日坂

一、延長 四、一一八、二五米

種別	箇所數	延長
橋梁	二	二七、一八米
隧道	一	一五〇、〇〇米
道路		三、九四一、〇七米

一、總工事費 金貳拾八萬六千圓

一、使役勞働者數 十八萬二千人

三、工事施行大要

本國道筋ハ一般地勢險難ニシテ急峻ナル山腹ニ沿ヒ數多ノ溪谷ヲ横過スルガ故ニ、暗渠アリ橋梁アリ隧道アリ多趣多樣ノ施工ヲ要シ之レニ加フルニ地層殆ド岩盤ニシテ、而ラザレバ崩壞シ易キ土壤ヨリナルヲ以テ一ケ年ノ期限内ニ竣功セシムルコトハ容易ナラザルノミナラズ、工費ニ關シテモ豫算ヲ超過スルノ恐れアリタルニモカ、ワラズ銳意努力ノ結果工事進捗スルニ及ビカヘツテ豫算ノ餘裕ヲ生ズル事ヲ認メタルヲ以テ更ニ千十五米ノ追加工事ヲ施工スルコト、シ此處ニ全工事ノ竣功ヲ見ルニ至レリ。

尙本工事施工ニ際シ該區間ノ交通ヲ禁止スルノ必要ニ迫リタルヲ以テ、迂廻道路トシテ大澤原吉澤間ノ町村道ヲ修築スル事トセリ。而シテ是ニ要スル工費壹萬五千參拾四圓ノ約三分之一ノ金額四千九百貳拾貳圓ヲ本國道工事費ヨリ支出シ、之レニ相當スル工事即チ幅員四米延長貳千貳百拾八米ノ坂路ノ開鑿ヲ直轄施工セリ。

四、工事設計工法

(イ) 幅員 全幅員七米有効幅員六米ニシテ車歩道ノ區別ナシ

- (ロ) 路面 郊外地ニ屬スルヲ以テ全線砂利道トス
- (ハ) 曲線 最小半徑三二、七三米トス
- (ニ) 縱斷句配 最急句配十五分ノ一、最緩句配三分ノ一トス。而シテ句配ノ變移スル所ニハ適當ナル縱斷曲線ヲ設ク
- (ホ) 橫斷句配 隧道内舗装箇所ハ四十分ノ一 双曲線トシ砂利道ハ十五分ノ一ノ拋物線トス
- (ヘ) 盛土切取 法面句配ハ地質ノ硬軟施工面ノ高低ニ應ジ、盛土ニアリテハ一割四分乃至一割七分トシ芝付工ヲ施シ、切取面ニアリテハ一割乃至一割二分トス
- (ト) 側溝 敷幅深サ共三〇糎ノ混凝土造トシ主トシテ切取箇所ニ設ケ排水ハ在來ノ水路又ハ河川ニ放流スルモノトス
- (チ) 暗渠 幅員二、五〇米以下ノ水路ニ設ケ地盤ノ硬軟ニ應シ適當ニ基礎工ヲ施シ鐵筋混凝土ヲ以テ函型ニ築造ス
- (リ) 橋梁 有効幅員六、四〇米、橋体ハ拱橋、桁橋ノ二種トシ 橋面ハ鐵筋混凝土及混和土舗装トス耐力ハ街路構造令ニ據リ鐵筋混凝土ヲ以テ築造ス
- (ヌ) 隧道 全延長一五〇米ニシテ掘鑿工、捲立工、舗装工ノ三設計ニ區分シ、掘鑿工ハ兩抗口ニ於テ高五、四六米 巾員八、一〇米トシ 中央部ハ高五、三一米 巾員七、八〇米トス 捲立工ハ混凝土捲トシ有効幅員六米 高四、五四米 中央部ニ於テハ拱側壁共三〇糎捲兩抗口ハ四五糎捲トス
- (ル) 駒止工 舗装工ハ基礎混凝土厚九糎表面グラノリリック混凝土トス
- (ヲ) 境界標 長一、三六米 二糎角ノ鐵筋コンクリート柱ヲ一、二米間隔ニ建込貫貳本ヲ以テ連繫ス
- (ワ) 砂利置場 長九〇糎 二糎角ノ鐵筋混凝土製トス
- (カ) 取付道階 長五米 巾三米 深〇、六七米ノ壁厚一〇糎ノ鐵筋混凝土造トシ約三〇〇米間隔ニ設置セリ改良工事ニ伴フ町村道及河川付替箇所等ハ何レモ本然ノ効用ヲ妨ゲザル限度ニ於テ施行シ町村道中改良道ト立体交叉ノ箇所ニ經間二、五米 高三米ノ鐵筋混凝土陸橋ヲ架設ス
- (ヨ) 迂廻道 從來ノ一部延長二、二一八、七六米 巾員四米ヲ標準トシ巾員ノ擴張屈曲ノ更正又ハ阪路ノ開鑿ニヨリ其ノ利用價值ヲ増大スル爲修築工事ヲ施行セリ

五、用地 及 地上 物件

沿線各地元町村ハ本工事執行ニ對シ好意ヲ以テ迎ヘタルヲ以テ用地買収及地上物件移轉ニ就テハ極メテ圓滑ナル協定ヲ見タリ。其他遞信省電柱並ニマンホール及陸地測量部所屬水準標等ノ移轉ニ於テモ亦格別障

碍ナク順調ニ處理スルコトヲ得タリ。因ニ本工事ノ爲ニ要シタル潰地反別ハ五町九反五畝二十六步二合八勺ニシテ之レガ買收費金壹萬五千八百貳拾五圓拾貳錢、地上物件移轉費五千四百參拾七圓七拾壹錢ヲ要シタリ。

六、失業救濟狀況

當工事ニ使役スル失業者豫定人員ハ拾六萬參千人ニシテ一日平均使用人員ハ約四百五十人トナル、而シテ關係十二ヶ町村ニ於テ登録セシメタル失業者ノ數ハ千貳百貳拾名ニシテ所要人員ノ約參倍トナリ、失業者ノ公平ナル勞働ノ受給ハ容易ナラザルヲ慮リ之レガ圓滑ヲ期センガ爲メ、名古屋地方職業紹介事務局靜岡縣社會課及關係十二ヶ町村ト協定シタル結果ハ縣社會課ノ斡旋ニヨリ縣社會事業協會ニテ勞働紹介所ヲ施行現場ニ設置スル事トセリ。而シテ勞働爭議等ノ爲工事ノ進捗ニ障害ヲ來スコトナカリシハ同所員ノ熱心ナル奮闘ノ結果ニ依ルモノト看ルヲ得ベシ。尙失業救濟趣旨ニヨリ救濟ノ圓滑ヲ計ルハ勿論使役方法ニ於テモ多大ノ考慮ヲ拂ヒ、且ツ工方法及施工方法ニ於テモ勞力消化本位トシ事業遂行シタル爲昭和七年四月末日迄ニ使役セシ延人員ハ拾八萬貳千人、豫定人員ヲ超過スル事壹萬九千人トナリ豫期以上ノ實績ヲ擧ゲ得タリ。